

はじめに

ー教業学区で平成 30 年度から防災まちづくりの取組を開始します

京都市では、平成 24 年に「歴史都市京都における密集市街地対策等の取組方針」及び「京都市細街路対策指針」を策定しました。また、平成 27 年 4 月から地域の主体的な防災まちづくり活動を継続的に支援する「京都市密集市街地・細街路における防災まちづくり推進制度」が開始されました。

今回、教業学区における地域による防災まちづくり活動の取組について、この支援の対象地区として、平成 30 年度から 3 年間を目途に活動支援を受けることとなりました。

これを絶好の機会としてとらえ、大震災に備えて家族の命と家財を守るため、学区全体で「防災のまちづくり」について考え、計画を策定し、できるところから具体的に取り組んでいく予定です。

■ 今年（12 月を目途に）、防災まちづくり計画策定に向けた準備段階の取組を進めます

教業学区の防災まちづくりは 3 年間を目途に取り組めますが、まずは学区のみなさんの防災まちづくりに対する課題共有に取り組むため、以下のような流れで取組を進める予定です。

【取組 1－課題認識】ー先進事例に学び、防災まちづくりの取組の必要性を認識します（6 月～7 月）

ー全国的な災害に強いまちづくりの先進事例及び市内の先進地区の取組に学び、教業学区での防災まちづくりの取組の必要性（緊急性）を認識する取組を進めます。

【取組 2－課題共有】ー教業学区が抱える防災上の課題を認識します（8 月～11 月）

ーまち歩きにより、身近な路地単位、町内会単位でまちを見直し、まちの課題を発見します。その確認したまちの防災上課題を学区民全体に丁寧に広報し、学区全体の課題として共有します。

【取組 3－計画策定の取組へ】ー防災上の課題を解決に向けた計画策定の取組を開始します（12 月）

ー学区全体および町内会単位の防災まちづくり計画策定の取組を開始します。そのための学区及び町内会単位の防災まちづくり計画策定のための組織づくりを進めます。

■ 6 月 17 日（日）に「防災まちづくり先進事例学習会」を開催しました

防災まちづくりの最初の取組として、全国の防災まちづくりを指導されています室崎益輝先生をお迎えし、「大震災に学ぶーいま、私たちがころえ、備えることはー」のテーマで先進事例学習会を開催しました。

学習会には約 60 名の方にご参加頂き、これから教業学区の防災まちづくりを進めるにあたっての基本姿勢を学びました。先生の当日の F b で「参加者の熱い視線に教業学区が『防災まちづくり大賞』受賞の予感を感じました」と評価して頂きました。

先生の講演録は次頁にまとめておりますので、是非、熟読頂き、これからの取組への理解を深めてください。

（京都新聞 6 月 18 日の朝刊で学習会記事が掲載されました→）



● 防災上の課題発見に向け、まち歩き等を行いますので、ご理解、ご協力をお願いします

教業学区の防災上の課題発見に向け、自主防災会委員や京都市、専門家等で、まち点検のための事前調査を随時進めてまいります。特に学区に多く見られます路地内で調査することがありますので、ご理解、ご協力をお願いします。現在の予定では 6 月末に役員メンバーで、7 月には自主防災会委員の方とまち歩きを行い、教業学区の防災面課題の認識に努め、課題共有を図る予定です。

◆6月18日午前7時58分、M6.1の大地震が大阪北部震源で発生

京都新聞
6月18日夕刊

大阪北部で震度6弱

倒壊、下敷き3人死亡

M6.1 京都5強、滋賀5弱

18日午前7時58分、大阪市区、大府高槻市、枚方市、茨木市、箕面市で震度6弱の地震が発生。気象庁によると、震源地は大阪府北部で、震源の深さは約13km。地震の規模はマグニチュード(M)6.1と推定される。その後地震が相次いだ。大阪府で震度6弱を観測したのは観測開始から初めて。1939年1月以降、初めて、京都で強震計は弱(6)、9面に観測記録。

大阪府災害対策本部や警察などによると、高槻市立春菜(ゆえ)小で女児(9)がプールの壁に挟まれ死。地震で壁が倒れたとみられる。大阪府東区では、80代男性が壁の倒壊に巻き込まれ死した。茨木市の住宅では80代男性が本棚の下敷きになり、病院に搬送されたが間もなく死亡した。

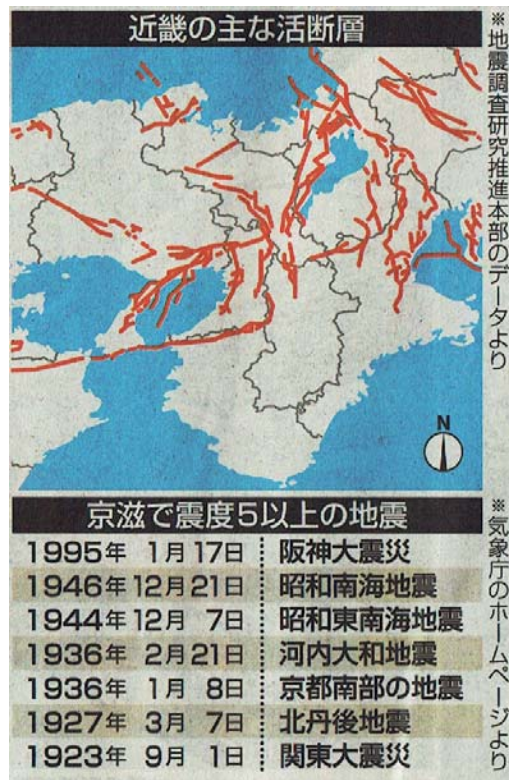
大阪府豊中市では8人が負傷。兵庫西宮市では転倒したり、物が落ちたりして5人が軽けけを負った。神戸市東灘区のスパーでは天井からガラス板が落下し、客の男性(4)が頭や胸に軽けけを負った。高槻市では住宅火災が発生し、水漏れが起きた。東淀川、山陽新幹線は一部区間の上下線、開通の鉄道会社は全線運転を見合わせた。駅には通勤客が溢れた。駅には通勤客が溢れた。



線路を歩いて最寄りの駅に向かうため、近鉄京都線の車両から降りる乗客(18日午前9時半、京都市伏見区)

京都でも地震の影響で電車が遅れたり、臨時休校が相次ぐなど市民生活に大きな影響が出た。京都警署や府警警戒本部などによると、鳥辺町の女性(51)が自宅から転倒し、左腕を骨折した。八幡町や長岡京市、京都府大山崎町でも男女6人が負傷した。また、山陽新幹線は一部区間の上下線、開通の鉄道会社は全線運転を見合わせた。駅には通勤客が溢れた。駅には通勤客が溢れた。

京滋



京都新聞 6月19日朝刊

- 6月17日(日)午前に「防災まちづくり先進事例学習会」で室崎先生からいつ起こるかもしれない大地震への備えについて学びました。
- 6月18日(月)午前8時頃に激しい縦揺れの大地震に襲われました。
- 教業学区防災まちづくりをスタートする最初に、その試練を経験することになりました。
- 家の中、家の廻り、避難路の状況などを改めて再確認しましょう。特に身近なブロック塀は点検が必要です！
- 「地震そのとき10のポイント」を今一度読み直し、いつ起こるかかわからない大災害に備えましょう!!!

【地震そのとき10のポイント!!!】

地震時の行動

1 地震だ！まず身の安全

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、身の安全を最優先に行動する。

地震時直後の行動

2 落ち着いて 火の元確認 初期消火

- ・火を使っているときは、揺れが収まってから、あわてずに火の始末をする。
- ・出火したときは、落ち着いて消火する。

3 あわてた行動 ケガのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。

4 窓や戸を開け 出口を確認

- ・揺れが収まったときに、避難ができるよう出口を確認する。

5 門や塀には近寄らない

- ・屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

地震後の行動

6 火災 確かな避難

- ・地域に大規模な火災の危険が迫り、身の危険を感じたら、地域の集合場所や 避難場所に避難する。

7 正しい情報 確かな行動

- ・ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。

8 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

- ・わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。

9 協力し合って 救出・救護

- ・倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。

10 避難の前に 安全確認 電気・ガス

- ・避難が必要ときには、ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めて避難する。

(「成逸防災心得」から)

(平成30年7月)

【発行】教業学区自主防災会

【編集責任】京・まち・ねっと